

2022.11.20 (日)

## 第4回ミステリーツアー開催後のご報告 (2022.11.19 (土) 開催)

(秘匿された旧陸軍東部 62 部隊周囲を巡る小さな旅)

川崎支部 支部長 山岸一雄

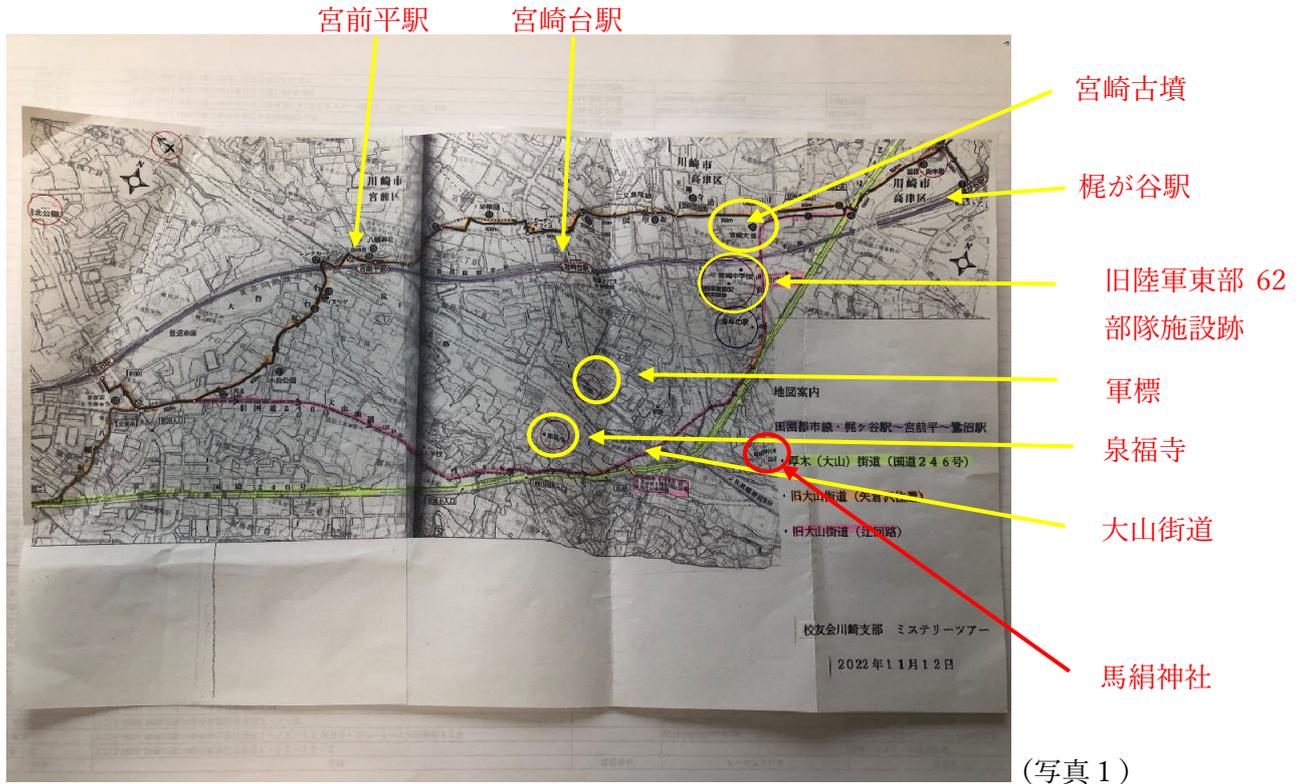
田園都市線梶が谷駅前から大山街道を通り出発です。行く先は当日でないと分かりません。(写真1～4) 今回は 20 代の橋本氏 (白い帽子) (写真 11) が 2022.10.29 (土) 牟田准教授の講演会 (原子力、ウクライナ等) に引き続き、今回も参加し平均年齢がかなり上がりました。

宮崎大塚の古墳 (写真 5) を過ぎると、宮崎中学校を見ながら第二次世界大戦での旧陸軍東部 62 部隊施設跡地を巡ります。墳頂には馬絹大塚供養塔が建立され、この古墳のすぐ横を旧大山街道が通り、かつては東部 62 部隊兵営の正門があり、正門そばには衛兵所と営倉があったそうです。連帯宿舎の面会所跡地 (写真 6)、連帯本部の跡地 (現在は学校) (写真 7) があり、今では想像が付きません。しばらく進むと歩兵第 2 第 3 中隊跡地、速射砲中隊や機関銃中隊と林立していたそうです。

旧陸軍東部 62 部隊は陸軍軍事施設溝ノ口演習場を使用した部隊で、現在の川崎市青少年の家 (元将校集会所)、宮崎中学校、虎の門病院分院があるあたりに展開していた陸軍部隊の通称名詞です。軍隊には防諜などのため外部に出す文書名に使う「通称名詞」と、一般には秘匿された「固有名詞」があり、「東部 62 部隊」と通称された部隊の役割は、時期によって違った様です。東部 62 部隊の兵営は、近くの旧県道 146 号線「長坂」の東側一帯で約 2.6 km<sup>2</sup>に及び、昭和 17(1942)年 11 月に陸軍歩兵第 101 連隊が転営した部隊で、一般向けの通称名詞が「東部 62 部隊」、秘匿された固有名詞が「歩兵第 101 連隊」です。

東部 62 部隊は関東各地から赤紙で招集され、短期間の教育訓練で 2 万人以上の兵隊を、次々と新部隊の補充に向かわせたそうです。かつての日本軍の序列は、将校・下士官・馬・兵隊といわれ、兵隊より武器や馬の方が大事にされていたと青年の家の職員から聞きました。日本軍は国民を一銭五厘の郵便はがきで兵隊の補充をしていました。

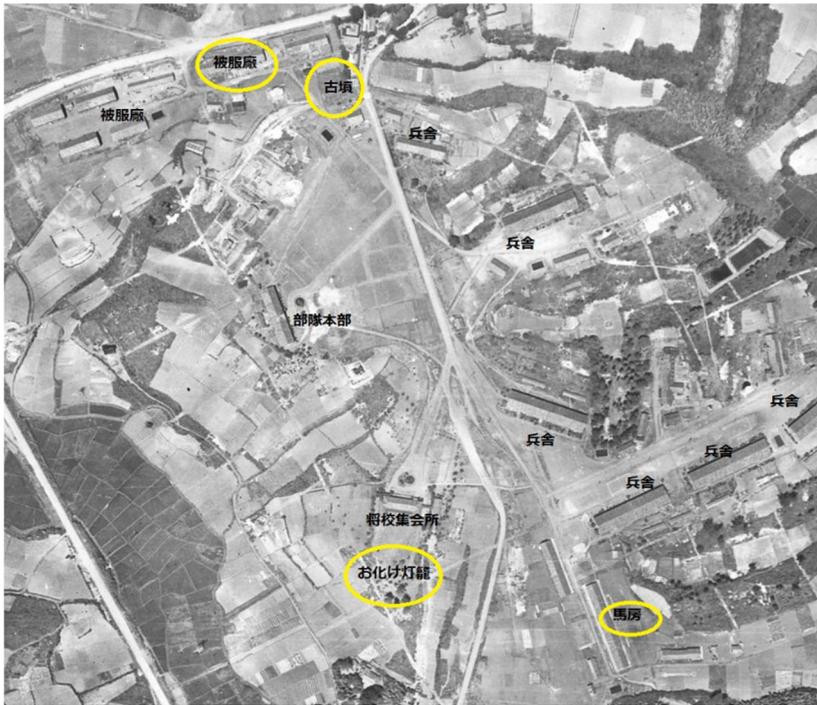
横穴式石室の馬絹古墳 (写真 8) では一般者が 2 名 (自転車姿+他 1 名) 参加して、川崎支部からの説明を熱心に聞いていました。泉福寺を經由して「軍標」(写真 9～10) に着きます。陸軍東部 62 部隊の軍用地境界の標石です。宮前区宮崎台の馬絹近くにある宮崎台サニーハイツと宮崎台パークハイツの間の石段に有り、地元の方に聞いたところ「軍標」のいわれは知らないそうです。宮崎台の台地の南側、馬絹との境目のあたりにいくつかの陸軍境界標石が残っていますが、元は 50 個程度あったと言われています。



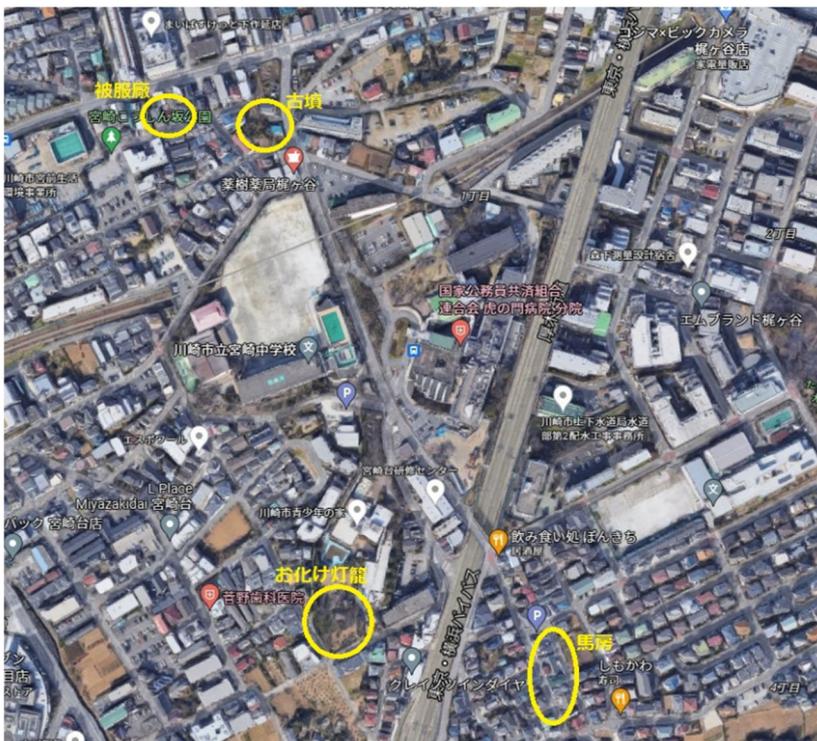
(写真1)



(写真2)



(写真3)



(写真4)



(写真5)



(写真6)



(写真7)



(写真8)



(写真9)



(写真10)



(写真 11) (左から 2 人目山岸支部長、右から 2 人目橋本氏－川崎市在住)

以 上